

# 保健師 ルポ



保険給付係の皆さん(筆者前列左から3番目)

## ともに支え合い、 いきいきと暮らせるまちを目指して

鹿屋市 健康保険課 保険給付係 主査(保健師) 門田 操

ひとが元気！まちが元気！  
「未来につながる健康都市」かのや

鹿屋市は大隅半島の中央部に位置し、県内各市町や空港・港湾等をつなぐ国道の結節点であるほか、国内有数の農林水産業地帯を形成しています。そのため、国・県の機関や商業施設、文化・教育施設、医療・福祉施設等が集積しているとともに、さつまいも、茶、園芸作物などの農業や養豚、肉用牛などの畜産業、カンパチやウナギなどの水産業において、高い産出額を誇る地域です。また、日本最大級のばら園を有しており、「ばらのまち」「健康・交流都市」をキャッチフレーズに様々な取り組みを行っています。

さらに、国立鹿屋体育大学や国立大隅青少年自然の家、県民健康プラザ健康増進センターなど、健康・スポーツに関する特色ある機関や施設等があり健康づくりに適した環境です。

総人口は98,669人(令和6年9月末現在)で高齢化率は30・96%



日本最大級のばら園「かのやばら園」

人口の将来推計において引き続き減少することが予測されており、高齢化率もますます増加することが予測されています。また、国保被保険者数は20,877人(令和6年9月末現在)、加入者割合は21・2%で、年々減少傾向にあります。

本市の国保保健事業は、健康保険課保険給付係が企画調整を行い、健康増進課(鹿屋市保健相談センター)と連携を図り、事業を展開しています。

保険給付係は、係長を含む事務職4人、保健師1人、会計年度任用職員7人(うち看護師4人)の係となっています。

### 第3期データヘルス計画策定からみえた課題

「健康の保持増進・QOLの維持及び向上」「医療費適正化」に向けて、令和6年3月に第3期データヘルス計画を策定しました。

第2期データヘルス計画の取組状況を整理したところ次のような課題が明確化されました。

・健診の受診率が低いことから国保加入者の健康状態の把握ができず、適切な健康支援や生活習慣病の予防につなげられていない。特に若年層(40・50代)や治療中患者への健診受診の勧奨が必要。

・特定保健指導、糖尿病性腎症や慢性腎臓病(CKD)の予防対策において、

リスクが高い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」の重症化予防をより一層意識した保健指導の内容の工夫が必要。

・特定健診受診の結果、医療機関受診勧奨判定者のうち医療につなげられていない人が一定数いることから「未治療者」を早期段階で医療へつなげる必要がある。

・効果的な支援を行うため、保健師、管理栄養士、歯科衛生士等の多職種連携を図った保健指導とともに、医療との連携の体制が必要。

これらの課題解決のために、市の保健師、管理栄養士、歯科衛生士等の医療専門職で、データヘルズ計画に整理している現状や課題の共有を図りました。また、市民にとって必要な支援体制等について随時検討しています。

今年度は、リスクが高い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」の重症化予防をより一層意識し、高血圧・脂質異常症の重症化予防対策の取り組みを始めました。複数のリスクを有している方もみられ、効果的効率的に支援できるような糖尿病重症化予防対策、高血圧・脂質異常症重症化予防対策の各担当が情報共有をしながら、健康支援を行っています。

### 特定健診受診率向上対策

本市は、特定健診受診率が県内で低い位置にあることから、令和3年度からは人工知能（AI）分析を活用した

受診勧奨対策の実施等、様々な取り組みを行っております。

特定健診では、医療機関での個別健診と複合健診として集団健診を実施しており、集団健診においては、土日の実施や夜間健診を実施していますが、健診受診率は36%前後を横ばいで推移し、特に40～50歳代の受診率が低く、働く世代の方々へのアプローチが課題となっています。

また、コロナ禍以降予約制を導入し、健診の待ち時間が短縮されたというメリットがある反面、「予約すること自体が面倒」「受診したかったが予約期間が過ぎていた」等の声もあり、健診の実施体制の見直しの必要性を感じています。

令和6年度の受診率向上対策としては、働く世代の方々の受診しやすい環境づくりや健康意識の向上を目的に次の取り組みを行っています。

① 40～64歳の方々へのSMS配信による受診勧奨

人工知能（AI）により分類した対象者に対し、ナッジ理論を用いたメッセージ（SMS）により、健診予約が可能な健診特設サイトへつなげる取り組みです。

② 簡易型血液検査による健康意識の向上

20～30歳代の方々と令和6年度の健診未受診者を対象に、自宅でできる血液検査を実施してもらい、自身の健康について意識を高めてもらう取り組みです。スマホから検査を申込み、自宅に届く検査キットで少量の採血後郵送し、

結果がスマホに届くものです。検査結果において一定の基準該当者に対し保健指導を行う計画です。

③ 健診継続受診のための健康年齢通知

健診受診行動につなげるために、健診受診者に対して、自身の健康状態を分かりやすく理解するための指標である「健康年齢通知」を届けています。このような新しい取り組みも、健康保険課一丸となって取り組んでいます。これらの取り組みが来年度の健診受診や市民の健康づくりに役立ててもらえるよう、市民の声を大切にしながら充実を図りたいと思います。



スマホを活用した検査申込等の案内チラシ

### 糖尿病性腎症重症化予防事業

本市では、国や県の糖尿病性腎症重症化予防プログラムをもとに、個別支援や集団支援に取り組んでいます。

具体的には、特定健診結果において基準該当者に対し、保健師、管理栄養士、歯科衛生士が面接や訪問を行い医

療機関への受診勧奨を含めた保健指導を行っています。

また、重症化予防のためには、医療機関受診後の支援も継続的に行われることが望ましいと考えられることから、医療機関と行政の連携体制を構築するために、保健指導従事者を対象としたスキルアップセミナーを開催し、糖尿病性腎症重症化予防事業の方向性の共有を図っております。

このような中、国保の新規人工透析導入者数は年々減少傾向でしたが、令和5年度は増加し、その多くの方々、過去5年間の健診が未受診であること、血圧や糖尿病が重症化した状況であることがうかがえました。

市民の生活習慣病の重症化を予防するために、行政と医療機関の連携のための具体的な連携方法や用いるツール等、多くの検討事項がありますが、地域の医療機関との協議を重ねながら、一人でも多くの市民が人工透析に至らないような支援体制を構築していきたいと思えます。



スキルアップセミナーの様子